

令和2年 第9回

武蔵野市教育委員会定例会

令和2年9月7日

於 412会議室

武蔵野市教育委員会

令和2年第9回武蔵野市教育委員会定例会

○令和2年9月7日（月曜日）

○出席委員（5名）

教 育 長	竹 内 道 則	教育長職務代理者	山 本 ふみこ
委 員	渡 邊 一 衛	委 員	清 水 健 一
委 員	井 口 大 也		

○事務局出席者

教 育 部 長	福 島 文 昭	教育企画課長	渡 邊 克 利
教育企画課 学校施設課 担当課長	西 館 知 宏	指 導 課 長	村 松 良 臣
統括指導主事	小 澤 泰 斗	教育支援課長	牛 込 秀 明
教育支援課 教育相談支援 担当課長	祐 成 将 晴	生涯学習課 スポーツ課長	長 坂 征
生涯学習課 スポーツ課 武蔵野ふるさと 歴史担当課長	栗 原 一 浩	図 書 館 長	目 澤 弘 康

○日 程

1. 開 会
2. 事務局報告
3. 議 案
議案第16号 武蔵野市立中学校特別支援学級の配置方針について
4. 協議事項
なし
5. 報告事項
 - (1) 教育部主要事業業務状況報告について（6～8月分）
 - (2) 令和2年第3回市議会定例会提出議案（補正予算）について
 - (3) 令和2年第3回市議会定例会提出議案（武蔵野市新学校給食桜堤調理場

- (仮称) 配送用コンテナ等の買入れ) について
- (4) 武蔵野地域五大学共同講演会2020について

◎開会の辞

○竹内教育長 ただいまから、令和2年第9回教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において、清水委員、山本委員、私、竹内、以上3名を指名いたします。

次に、傍聴についてお諮りいたします。

定員の範囲内で傍聴の申込みがあった場合、本日の傍聴を許可することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、傍聴を許可いたします。

◎事務局報告

○竹内教育長 これより、議事に入ります。

事務局報告に入ります。

教育部長から報告をお願いします。

○福島教育部長 それでは、前回の定例会以降の教育委員会の状況等についてご報告させていただきます。

まず、文教委員会が8月18日に開催され、教育委員会関連では、6月の文教委員会で継続審査となっていた陳情、市立小・中学校のオンライン教育に関する陳情の審査があり、審査の結果、陳情の趣旨に沿って、豊かな学びを推進するために課題解決に向けて善処されたいとの意見つきの採択がされたところでございます。

主な質疑についてご紹介しますと、まず、「陳情では一日も早いオンライン授業を求めているが、GIGAスクール構想に関する補正予算によってオンライン授業は可能になるのか」とのお尋ねがあり、「機器が入れば全てオンライン授業ができるというわけではなく、できるところから始めていくことになるが、先生方が通常の授業とオンライン授業の両方を同時にやっていくのは困難である」とお答えをいたしました。

次に、「新型コロナウイルス感染症対策におけるオンライン教育とGIGAスクール構想は別ということでもいいか」とのお尋ねがあり、「目的が別のものとする。機器の

整備に当たっては目的が大事であり、基本的な考え方についての議論を大事にしながら、武蔵野の教育の中で適切かつ効果的に使われていくように考えていきたい」とお答えをいたしました。

次に、「陳情は定期的なオンライン授業を求めており、今、回数を決めることはできないが、実施するための体制はあると理解してよいか」とのお尋ねがあり、「例えば1人1台端末が配備され、授業の振り返りや家庭でいわゆる勉強道具として使用できるようになれば、休業になった場合、オンラインを活用した家庭学習支援としてすぐに運用ができる」とお答えをいたしました。

次に、令和2年第3回市議会定例会が、9月2日から29日までの会期で開催されております。2日から4日まで20名の議員から一般質問が行われ、そのうち教育委員会に関する質問は16名の議員からございましたので、主な質疑についてご紹介いたします。

まず、「新型コロナウイルス感染症に関して、障害児が通学している学級で対応できたのか」とのお尋ねがあり、「知的障害や肢体不自由などの特別支援学級では1学級8人等の少人数で編成しており、児童・生徒間の距離を取っていることに加え、通常学級同様、マスク着用や手洗い消毒を行っている」とお答えをいたしました。

次に、「市立中学校の修学旅行の一斉中止を、なぜ、どのようにして決定したのか」とのお尋ねがあり、「新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、宿舍などでどうしても密になること、遠隔地で発症した場合、十分な医療体制を確保できないこと等の課題があり、生徒の健康を第一に考え中止とした。その際、各校とも相談した上で教育委員会で協議をして決定した」とお答えをいたしました。

次に、「英語等の授業において教員、児童・生徒へ、マウスシールドの配付や飛沫防止の亚克力板等の設置が必要ではないか」とのお尋ねには、「フェースシールドを全教員分配付をしており、マウスシールドについても必要に応じて学校で購入し全教員に配付しているところがあり、特に英語の授業で発音の指導で口元が見えるようにするため使用することが多い。亚克力板を設置している学校もあるが、各校の工夫による」とお答えをいたしました。

次に、武蔵野市学習者用コンピュータ活用に関する基本的な考え方に関して、3年間で実施する試行の内容についてのお尋ねがあり、「学校教育において学習者用コンピュータを活用することが有効な場面や方法、指導内容、身につく力、教職員の研修などについての指針を定めるため試行事業を行う」とお答えをいたしました。

また、「学校ICTサポーターについて、機器を活用した授業設計等にも知見のある人を採用すべきと考えるが、見解を伺う」とのお尋ねがあり、「機器の操作の知見と授業設計の知見を併せ持った人物は、かなり限られており採用することは難しいが、3年間の施行事業の中で実践事例を蓄積していくとともに、指導主事と各学校の中核的な教員で体制を組み、効果的な指導方法について広げていきたい」とお答えをいたしました。

次に、「3カ月間の臨時休校の効果、課題は何か」とのお尋ねがあり、「学校での感染リスクを下げることはできた一方で、電話による週1回程度の連絡や、生活リズムを整える家庭学習の計画を提示するなど工夫して、生活リズムを崩さないようにしたが、一部に乱れがあったということ課題として認識している」とお答えをいたしました。

また、「再開のタイミングは妥当だったのか」とのお尋ねがあり、「5月25日の国の緊急事態宣言の解除を踏まえ、学校での受入れ態勢を整えるため、6月1日から段階的に登校を開始した」とお答えをいたしました。

次に、「図書館を休館する判断は妥当だったのか」とのお尋ねがあり、「市民の生命・健康を守るためにいたし方がなかったが、利用者の学びや楽しみ、図書館という居場所が失われた面があったこと、ただし、そうした中でも、図書館の責務・役割を果たすために、市民限定や利用者番号による来館可能日時の指定など、密を避ける工夫を行った」とお答えをいたしました。

次に、「教育現場において健康診断は的確に行われたか」とのお尋ねがあり、「学校の定期健康診断については、学校保健安全法施行規則により6月末までに行うこととされているが、今年度は文部科学省から、年度末までに可能な限り速やかに実施することと通知があった。医師会・歯科医師会と相談の上、学校再開後、6月中旬から順次実施することとし、9月末までに完了する予定である」とお答えをいたしました。

次に、小・中学校の先生方のストレスを軽くするための方策についてお尋ねがあり、「これまでなかった臨時休業中の業務、学校再開後の教育課程の見直し、感染防止対策を行いながらの教育活動など、新たな業務に対するストレスを感じていると認識をしている。消毒作業はシルバー人材センターによる作業を充実させる」とお答えをいたしました。

また、「学校再開後の消毒作業を地域に依頼した学校としなかった学校があったのはなぜか」とのお尋ねには、「教育委員会として感染リスクを低減するための指針をガイドラインとして示したが、学校によっては、ガイドラインで示した範囲に加えて机や椅

子など広範囲に消毒する場合もあり、消毒作業に相当の時間をかけていた学校もある」とお答えをいたしました。

次に、教職員等のセクシャルハラスメントの防止体制についてお尋ねがあり、「セクシャルハラスメント防止については、教員の服務規程のほか、武蔵野市立学校におけるセクシャルハラスメント防止に関する要綱に定めており、学校内では校長が相談窓口となり、外部では指導課のセクシャルハラスメント相談員に相談できる体制を取っている」とお答えをいたしました。

次に、「少人数学級の実現を要求すべきと考えるが、認識を伺う」とのお尋ねには、「学級編制に関する定数は東京都教育委員会が定めるところであり、1学級当たりの定数を減らすことについては、全国または東京都の教育長会で従来より要望しており、今後も引き続き要望したい」とお答えをいたしました。

議会に関しては以上でございます。

次に、市内の学校の状況についてご報告をいたします。

8月24日に市内小・中学校では始業式を行い、2学期が始まりました。夏季休業中、大きな事故等の報告もなく、無事に2学期のスタートを切ることができました。今年は、本来であれば昨年度の管理運営規則の改正に伴い、8月27日から2学期が開始する初めての年となるところでしたが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受けた長期休業を踏まえ、今年度のみ夏季休業日を8月1日から23日までと変更をいたしました。各学校では、感染症対策を十分に講じた上で、学習支援教室の実施や部活動など、子どもたちの健康や安全を最優先に配慮しながら様々な教育活動が行われました。

また、今年は夏休み中の児童・生徒たちの学習に役立ててもらおうと、三鷹市と共同で教育動画の作成・放映を行う武蔵野－三鷹educational Television、M－ME Tを実施いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で3月から3か月間以上休校が続きましたが、この間、児童・生徒の家庭学習支援やインターネット環境のないご家庭への機器の貸出しなども行ってきました。今回は、それに加えて武蔵野・三鷹両市で7割以上の世帯をカバーするジェイコム東京と連携し、学習動画をテレビ放映することにいたしました。放送期間は8月3日から31日までで、月曜日から金曜日の午前8時から30分間、朝8時の体操からスタートし、小学校低学年、中学年、高学年、中学生向けに、合わせて15本の番組が順次放映されました。指導教諭などの両市の経験豊かな教員が出演いたしました。子どもたちの夏休み中の生活リズムを整えるとともに、児童や生徒が抱

える課題を踏まえた指導を行うことで、実効性の高い内容といたしました。また、市内の先生方にも視聴していただき各学校の取組に生かしていただければと、各学校へ放映について周知を行ったところでございます。ジェイコムから放映後の反響等についての情報はまだいただけておりませんが、ご出演いただいた先生方に対象となる子どもたちを想定し様々な工夫をしていただき、良い動画が完成した取組であったと考えております。

次に、8月20日には市長と校長との懇談会を開催をいたしました。話題としたのは、武蔵野市学習者用コンピュータ活用に関する基本的な考え方についてでございます。懇談会では市長に率直にお話をいただくとともに、校長先生方からはコンピュータの導入を進めてほしいこと、1度の導入で終わりではなく、持続可能性を踏まえ計画的に進めていく必要があること、学習者用コンピュータは体験をより豊かで広がりのあるものとするためのツールであること、現場で学習者用コンピュータをどのように生かすかが課題であることなどについてご意見がありました。懇談会でいただいたご意見を踏まえ、導入に向けて準備を進めてまいります。

以上で事務局報告を終わります。

○竹内教育長 ただいまの報告に質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 最後から2番目の教育動画については、8月31日までで終わっていますが、せっかく作ったのにもったいないと思います。その後の何か使い道や、引き続き見られるようにするなどの、可能性はあるのでしょうか。

○竹内教育長 指導課長。

○村松指導課長 M-ME Tにつきましては、夏休み中ということで8月31日までの視聴でしたけれども、動画のデータについては指導課で保管しておりますので、今後学校で使ったり、先生方の要望に応じて活用したりすることはできると考えております。

○渡邊委員 学校とうまく連携を取っていただきたいですし、せっかく作ったのですから活用していただきたいです。我々も見ることができますか。

○村松指導課長 DVD-Rの形で保存してありますので、ご要望があればお貸しして見ていただくことができますと思います。

○渡邊委員 ありがとうございます。

○竹内教育長 よろしいですか。

ほかにはございますか。

山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 今、渡邊委員が言われたことは、とても大切で、そういうものができると何度も何度も見ることができるという良さがありますよね。いろいろなことを学んだり読んだり見たりするときに、一回だけでは絶対頭に入っていないんですよね。脳的には100回ぐらい見ると本当の意味で理解できるというぐらいなので、そういうものを作った良さというのをこの時期に生かすということが、とても大切だなと感じております。何度も何度もということをごどこかで実現できるようにというふうに思います。

それから、この間の定例会から今日までの間に見せていただくことのできた学校便りを読んでいて、皆さんとても慎重にこれまでのことを書いておられたり、未来に対する期待のようなものも書いてくださっているんです、主に校長先生が。その中で幾つか気になる表現がありました。それは、新型コロナウイルス感染症にかかってしまうことを最悪の事態というふうに捉えている記述です。その最悪の事態に陥らないように、または、陥ってしまった場合はというようなことが書かれているんですけども、もうコロナウイルス感染症にかかることは、もちろん絶対喜ばしいことではないけれども、最悪とは言っていない、言ってはいけないという段階だと思うんです。先ほど打合せのときに井口委員も言われたけれども、どこでコロナウイルス感染症が出たよというようなことではない方向で進めていくのが、ふさわしい時期に到達しているんじゃないかということと言われて、私も本当にそうだな、そうやってきたなというふうに思いました。

というのは、学校では本当に皆さん慎重に準備されて、今の部長のご報告の中でも消毒のことなど、細心の注意で細やかにしていらっしゃるのに、こういうとても目に触れやすい学校便りのようなところで、その表現が甘くなることで誤解が生じてしまうということは、避けなければならないと思います。私たちは分かります。皆さん校長先生がそんな意味でこんな言葉を使っていらっしゃるんじゃないことは、よく分かるんですけども、今はより慎重に言葉選びをしなければいけないということを感じているんです。そのことを校長会のようなところで、脅かすような意味ではなく、感染症が出てきたときよりも少し変わった流れになってきているし、これから先はこうあったほうがいいのかというように話して、確認しておくことが必要かなと思っています。

以上です。

○竹内教育長 ありがとうございます。私のほうからもそういう機会があれば話をしてお

きたいと思います。ありがとうございます。

M-METについては、武蔵野市は幸いに5人も指導教諭の配置があり、その全員が今回関わっているのです、国語、算数、体育、音楽、図工と。指導主事も中学校の教科書採択の忙しい中、2人関わっていただいて、新しいことに取り組んだので、指導教諭の役割はこういうのもあるのかなというのと、三鷹市と一緒にやることで、良い授業をつくろうという意味で相互に刺激があったので、良い機会だったなと思いました。

ほかにはございませんか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 修学旅行そして日光移動教室の中止という決断を、市全体として中止をする
と決めたので、その後中学3年生や小学校6年生が何か思い出に残るような企画を検討
しているとお聞きしております。何か具体的に、この学校ではこんなことが進み始めて
いるよ、こんなふうになっていくというような情報がございましたら、知りたいなと思
いましたが、いかがでしょうか。

○竹内教育長 指導課長、どうぞ。

○村松指導課長 現在、学校のほうでも、どのような代替の企画ができるのか考えている
ところですが、こちらのほうからも、子どもたちがいろいろと意見を出し合って、
主体的に関わられるような行事づくりをしてくださいということでお願いをしておいま
す。中でも、校内の中でいろいろな自分たちの思い出に残るような行事を企画している
学校もあれば、この機会にということで学習と絡めて社会科見学ですとか、英語村のほ
うに行くということを計画しているところもあります。また、卒業遠足のような要素で
各校、今、工夫をしていると聞いております。

○竹内教育長 どうぞ。

○井口委員 ありがとうございます。

例年がないことですので、進捗じゃないですけども、またこの定例会で、この学校
はこういうふうになってというような方向が見えてきましたら、教えていただければと
思っています。生徒・児童が大きな意味で言えば一生に一度の義務教育最後の修学旅行、
小学校最後の日光ですので、中止になってとても心を痛めているというか、仕方がない
わけですけども、気にしているところですので、報告をお願いいたします。

○竹内教育長 ありがとうございます。そういうところを心がけていきたいと思います。
ほかにはよろしいでしょうか。

◎議案第16号 武蔵野市立中学校特別支援学級の配置方針について

○竹内教育長 それでは、次に議案に入ります。

議案第16号 武蔵野市立中学校特別支援学級の配置方針についてを議題といたします。
説明をお願いします。教育相談支援担当課長。

○祐成教育相談支援担当課長 それでは、中学校特別支援学級の配置方針についてのご説明をいたします。

まず現状と課題ですが、本市の中学校の知的障害特別支援学級は、現在、第四中学校のみに設置をしております。学級では個々の状態に応じたグループ指導や学級全体での教育活動も行っております。また、通学や生活指導、緊急対応など様々なことを、家庭と密接に連携して行っております。現在、中学校の知的障害の特別支援学級の生徒数は増加傾向にあります。今後も生徒数が30名を超えた場合においても、学級全体での教育活動や家庭との連携を安全かつ着実に行うためにも、将来的には中学校（知的障害）特別支援学級を、もう一個設置をする必要があります。なお、都内1校当たりの生徒数の特別支援学級の平均は17.7名となっております。

次に、特別支援学級を複数設置する理由ですが、まず学校ごとに特別支援学級の教員配置に加配があり、指導体制の充実を図ることができます。

次に、生徒数が10から20名程度の学級規模となり、学級全体での教育活動がしやすくなります。

次に、現在は市内全域から四中に通学しているような状況ですが、複数校設置することにより生徒の通学距離が短くなります。

次に、生活指導や緊急時において直接家庭訪問などの連携が取りやすくなります。

次に、学区に特別支援学級を設置することにより、地域における交流や共同学習など、障害者理解教育を促進することができます。

最後に、小学校との連携がより円滑になり、切れ目ない指導支援がしやすくなります。

3番ですけれども、中学校特別支援学級の配置方針ですが、第三期武蔵野市学校教育計画及び武蔵野市学校施設整備基本計画や上記、先ほどの理由に加え、長期的・全市的な観点から特別支援学級の配置状況、地理的条件、必要教室数などを総合的に勘案した結果、第五中学校の改築に合わせて知的障害の特別支援学級を設置する方向で準備を進めてまいります。

なお、今後については、市報での周知を経て10月10日に保護者・市民対象説明会を開催して、方針を説明していく予定となっております。

以上で説明を終わります。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がございましたらお願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 今伺ったご説明で大体よく分かりました。近隣市区の特別支援学級、知的障害の設置状況と比較しても武蔵野市は1校で生徒数も多いので、この点からいってもそうですし、2番に書かれています(1)から(6)の内容、これ一つ一つそのとおりだなと思いますので、その方向でぜひ進めていただきたいなと思います。

ただ、3番のほうに書かれている第五中学校の改築に合わせて特別支援学級を設置する方向ということで、地理的には四中と第五中学校ということでちょうどいいのかなと思うんですが、改築ということでいくと改築が完了する年度で令和11年、12年という、ほぼ10年ぐらい先になってしまうわけで、例えば改築のさなかで設置をしていくというようなお考えがあるのか、あるいは、改築が終わったところできちんとした施設を確保した上で開設をしていくのかというあたりはどうなんでしょうか。

○竹内教育長 教育相談支援担当課長。

○祐成教育相談支援担当課長 第五中学校ですけれども、令和7年4月の予定となっております。基本的には連なりで教室が4教室ほど必要になってくる関係で改築に合わせて、事前にこの後の改築懇談会等で丁寧にご説明をして、プランのほうに特別支援教室の教室も入れて設置をしたいというふうに考えております。

○竹内教育長 よろしいでしょうか。

ほかはいかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 私も早く実現すると思います。それで、人数が今は27人ですけれども、何か試算があるのですか。せっかくつくっても五中のほうに少ないともったいないとか、そういうこともあります。分かる範囲で結構です。

○竹内教育長 教育相談支援担当課長。

○祐成教育相談支援担当課長 現在検討しているところではありますけれども、二中、五中、六中学区の生徒に、五中の新しくできる特別支援学級に行っていただくことを考えておまして、小学校の特別支援学級で言うと、境南小のけやき学級のお子様がそのま

ま第五中学校に上がるような形になっております。大野田むらさきと三小ひまわりの方は四中に行くので、四中のほうが少し多くなると思いますけれども、そんなに大きな偏りは出ないのではないと考えております。

○竹内教育長 ほかはいかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、お諮りいたします。

議案第16号について採決に入りたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第16号 武蔵野市立中学校特別支援学級の配置方針について、本案を事務局提案のとおり決することに賛成ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、本案は事務局提案のとおり決定させていただきます。

◎報告事項

○竹内教育長 続きまして、本日は協議事項はございませんので報告事項に入ります。

報告事項1、教育部主要事業業務状況報告について(6～8月分)です。説明をお願いします。教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 それでは、ご説明いたします。状況説明と、成果と課題の欄について、ポイントを絞ってご説明したいと思います。

まず事業名1でございます。3つ内容がございますけれども、大きく進展があったのは①の学校改築です。改築懇談会で配置のプランを示しました。まだこれはご意見をいただいて固めていくところでございます。②、③につきましては、今、準備を進めているところでございます。

以上です。

○村松指導課長 続きまして、指導課でございます。

初めに、2ページの人権教育や多様性を認め合う教育といじめ防止の推進でございます。

オリンピック・パラリンピック教育は次年度開催に向けて継続して推進しています。また、多様な人々と関わる場については、各校、感染防止対策を講じた計画を工夫して

いるところです。

児童・生徒一人一人が活躍できる場については、先ほどもお話しさせていただきましたけれども、連合行事や宿泊行事の中止による代替行事を計画するに当たって、児童・生徒が主体的に計画し、一人一人が活躍できる場を積極的に設けるよう、7月の臨時校長会にて指示いたしました。

いじめ問題の状況については調査は今回行っておりませんが、6月のふれあい月間、学校再開後、小学校5年、中学校2年生に都のスクールカウンセラーの全員面接を行ったり、他学年の児童・生徒の様子について把握したりしています。

成果と課題は、様々な立場の理解という観点から6月19日に人権教育推進委員会を実施し、新型コロナウイルス感染症に関する人権について、各校担当者への研修を行っております。

多様な人々と関わる学習活動や児童・生徒一人一人が活躍できる場については、積極的に設ける必要がありますが、ウィズコロナに応じた活動方法の在り方を見直す必要があると考えております。

いじめ問題については、今月いじめ防止月間でございますので、それによる啓発を行います。また、組織的にいじめの未然防止、早期発見、迅速で確実な対応をする体制を整えるために、12月までに武蔵野市いじめ防止基本方針に基づいた方策を示そうと、今、検討しているところでございます。

2点目は、武蔵野市民科の実施でございます。

学校の臨時休業により保護者会が開催できませんでしたが、市民科の目的や各校の取組について説明資料を配布するとともに、学校公開にて武蔵野市民科の試行授業の公開をお願いしています。

境南小学校では中間発表会を行う予定ですが、今回、参加者を限定し、授業についてはビデオや写真による紹介、また、武蔵野市民科についてグループ協議を行う方法で開催を検討しています。

今後は、武蔵野市民科の目的や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた試行授業の公開方法など、いま一度周知の方法について見直す必要があります。

また、各校の試行授業の進捗については、指導課訪問や指導主事による随時の訪問で確認してまいります。

3点目は、言語能力の育成でございます。

読書活動については、学校再開後、学校図書館の通常の開館ができています。

英語については、アドバイザーによる巡回指導を開始しています。また、感染予防を踏まえたアクティビティの提案と情報提供を行っています。

課題としては、前回ご指摘いただいた学校図書館サポーターの資質向上を図る研修会の設定、また、指導資料等の作成を今後行っていきます。

また、小学校英語教育推進アドバイザーによる巡回指導を効率的に行い、小学校教員による外国語科指導の充実を図ることと、感染予防を踏まえたコミュニケーションを図る学習活動を提案する必要があります。

4点目は、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業力の向上でございます。

夏季休業中の研修については中止したものもありますが、感染予防に努め実施したものや、レポートの提出による代替研修を行ったりして研修の機会を確保しました。

1月に予定していた桜野小学校の研究発表会は、研究指定期間の延長を含め次年度に延期いたします。

成果といたしましては、学校再開後、教育アドバイザーによる指導・支援は計画的に進めております。課題は、市主催の研修の在り方や方法を見直すとともに、指導教諭の授業見学や都の教科研究会等への参加など、校外における研修や研さんの奨励について検討します。

また、研究発表の在り方の見直しを図るとともに、前回同様、指導主事が積極的に関わり、研究内容を充実させ、各校に成果を基にした指導・助言を行う役割を強化してまいります。

5点目は、学校・家庭・地域が連携・協働するための取組の推進でございます。

9月1日発行の「きょういく武蔵野」第142号にて、地域と学校の協働における課題、啓発等を掲載しました。

また、第1回地域コーディネーター連絡会は、開催を中止といたしましたが、第2回を9月18日に開催するため準備を進めております。

課題としましては、「きょういく武蔵野」にて地域と学校の協働における課題、啓発したことを契機に、学校・家庭・地域の三者が連携・協働した学校運営の在り方について、教育部としての考え方を今年度中にまとめ、次年度、検討委員会を開始したいと考えております。

最後に、学校における働き方改革の推進でございます。

学校再開後、週当たりの在校時間が60時間を超える教員が発生しています。7月は成績処理もあり、60時間を超える教員が増加していました。

8月17日には武蔵野市学校部活動の在り方検討委員会を開催し、部活動指導員の活動状況を報告し合いました。

校内の消毒作業や感染予防に配慮した教材研究等にかかる時間が増加しているということで、校務処理の効率化を検討して在校時間の縮減を図る必要があると考えております。

部活動指導員を各校1名配置したことにより、活動の充実、教員の負担軽減が図られていることが報告されました。部活動開始による指導員の複数配置を進めるとともに、合同部活動を含め、持続可能な部活動の在り方についてを今後も検討してまいります。

指導課からは以上です。

○**祐成教育相談支援担当課長** 続きます、教育支援課です。

事業名8、特別支援教育における多様な学びの場の整備と交流及び共同学習の推進ですが、8ページをご覧ください。

特別支援教室については、学校再開後、巡回指導を開始することができました。小学校特別支援教室の新拠点校については、夏季休業中にミーティングルームの設置を行いました。今後は、2学期の間にタブレットの導入を実施したいというふうに考えております。これは中学校ですね。中学校の特別支援教室に2学期の間にタブレットを導入するという事です。

②番です。学校再開後から交流共同学習支援員として活動を開始することができました。各校で活動を行うことができまして、今後は各校の活動内容の共有と来年度、今は小学校の特別支援学級に導入しているんですけども、中学校の特別支援学級にどのように導入できるか、検討を行っていきたいと考えております。

③番、就学相談については6月1日から開始をしております、8月17、18、20日で集団行動観察を行いました。今後は就学支援委員会で適切な就学先を決定していきたいと思っております。

事業名9番です。不登校児童生徒への支援の充実ということで、9ページをご覧ください。

学校再開後、スクールソーシャルワーカーが各校を定期的に訪問を開始することができまして、6名体制として本格的に開始することができました。今後はよりきめ細やか

な支援を行っていきたいと思います。

次、学びの場については、7月1日に「むさしのクレスコーレ」として開設をすることができました。スクールソーシャルワーカー等を活用した結果、8月6日の段階で3件の入室につながっております。さらなる利用をつなげていきたいというふうに考えております。

教員用の手引きの作成については、7月に全教員に配付を行いまして手引きの活用を図り、また、内容については各教員からフィードバックを受けていきたいというふうに考えております。

○牛込教育支援課長 事業名10、新学校給食桜堤調理場の整備についてでございます。

状況説明について①番、6月から8月にかけては主に地下部分、地下の配筋、コンクリート打設、配管などの工事を行いました。また、各校に給食を配送するためのコンテナの買入れの入札を行いました。

②番、また、給食・食育振興財団と調理体制や新施設の維持管理に関する検討会議を行いました。7月から、新施設の運用に向けた調理員の研修会も定期的を実施しております。

今後は地上部の工事が始まりますが、引き続き事業者、財団と連携を図りながら準備を進めてまいります。

○長坂生涯学習スポーツ課長 生涯学習スポーツ課です。

事業名11です。状況説明及び成果と課題ですが、①について、他の事業を優先したため今は検討ができていない状況ですが、次回の社会教育委員の会議で議論できるよう準備を行っております。

②につきまして、こちらの調査も未実施の状態です。土曜学校について指導統括者と協議し、コロナ禍におけるサイエンスクラブの在り方について次年度の方向性を協議いたしました。

事業名12です。①ですが、障害者のためのスポーツ広場について開催時間の延長を調整し、9月から再開に向けて調整を行いました。また、市民スポーツデーにつきまして、運営委員の方とコロナウイルス感染症対策について協議を行い、実施再開を予定しております。

②につきまして、生涯学習振興事業団と共同で、自宅で気軽にできる運動、野外活動の動画を配信いたしました。また、運動習慣のない人へ運動を始めるきっかけづくりで

ある「3Weeks Try」シート6月版、スポーツ推進委員と共同で夏休みの子ども向け、自宅で手軽にできる「おうちで運動遊び」を作成し、市ホームページ、フェイスブック等で配信を行いました。

成果と課題につきましては、記載のとおりとなっております。

事業名13です。12ページをお願いいたします。①につきまして、意識調査に関する各種準備を行い、10月中にプロポーザル、業者決定を予定しております。

②につきましては、関係部署との調整、要綱等の整備を行い、第1回検討委員会を9月に開催する予定となっております。

○栗原武蔵野ふるさと歴史館担当課長 14番の歴史公文書の利活用でございます。

①歴史公文書を使いました武蔵野の歴史の周知ということでございますが、国勢調査展のみならず様々な展示会を通じまして、歴史公文書の魅力を伝えております。特に、つい数日前までは3つの企画展、市民スペースから上の会議室、もちろん企画展など、様々なところで歴史公文書を使いました展示を行ってまいりました。課題といたしましては、それをさらにSNSで発信できればというふうに思っております。

もう一方、②のほうでございますけれども、階層化を通じて市民に分かりやすく公文書を伝えるということの意義でございますけれども、こちらは中島飛行機などの目次づくりを行っております。また、市民歴史館大学というのをやっております、ここの一種の卒業生のような者をボランティアやサポーターとして活用いたしまして、目次づくりなどを行っていくという、そういったシステムを現在つくっております。サポーターのほうにもすばらしい方もいらっしゃいますし、これからという方もいらっしゃいますので、こういった方々をまとめていくのが今後の課題ということになってまいります。

それでは次、15番の文化財のところでございます。

文化財の整備、広報、周知していくことでございますけれども、①番、文化財の指定整備でございますが、旧赤星邸の国の登録文化財の指定と、それから御殿山遺跡調査、井の頭公園近辺の縄文土器の市の文化財指定ということが課題となってまいります。これは現在どちらも調査・研究を進めてまいります。特に、縄文の草創期の土器の日本で2番目に古いということは時々申し上げておりますけれども、こちらの指定は年内に行いたいと思っておりますし、赤星邸についても資産活用課と協議を続けてまいりたいと思っております。

また、コロナ期における来館者の減少につきましては、SNSを通じた情報の発信と

いうのを続けまして、できるだけ多くの方に歴史館を知っていただくという努力を続けてまいりたいと思っております。現在、全員に動画配信研修というのを行いまして、全員が動画を作れるという体制をつくりまして、今後も多くの方に歴史館を知っていただき、武蔵野の歴史を知っていただくという努力を続けてまいりたいと考えております。

以上です。

○目澤図書館長 図書館です。

事業名16、図書館情報システムの更新は、1番、まず導入スケジュールや新機能の導入についての詰めを行いました。現在、契約の確定作業中であります。

無線LANの導入については現地調査を行いまして、課題としては、今後、運用方法についての具体的な調整を進めてまいる段階です。

事業名17番、中央図書館の運営形態についてです。

中央図書館の運営形態に関する方針案を現在も作成しております。

併せて市の人材育成基本方針がこのたび7月に出ましたので、それを踏まえて図書館の人材育成計画も策定中です。

成果と課題としては、素案の作成を引き続き行ってまいります。

次に、事業名の18番、蔵書方針の見直しと情報発信力の強化についてです。

①番、蔵書構成について近隣自治体との比較分析を行いました。武蔵野市は文学の割合がやや低く社会科学の割合がやや高いということや、蔵書の回転数が非常に良好というか高いということを確認いたしました。近隣自治体との比較を行いました、引き続き市内の3館の比較分析を行う予定です。

②番のホームページにつきましては、アクセス分析でスマートフォンの利用が約6割超であることを確認しまして、スマートフォンの画面の改善というのを行うことができました。引き続き、SNSなどを活用した情報発信について運用を検討していきます。

事業名の19番です。

市民への適切なサービス水準についてですが、市民（在住・在勤・在学）を対象として予約の受け付けを優先するなど、具体の案を作成しております。今後、その具体案を基に検討を続けている段階です。

事業名の20番、第2次子ども読書活動推進計画についてです。

①番、7月2日に第1回、8月27日に第2回を行いまして、子ども読書活動における

課題や学校図書館における課題を先に議論いただくことができました。また、これまでの議論も踏まえて令和3年度の予算編成案を検討しております。

成果と課題については記載のとおりです。

図書館からは以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたらお願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 細かい話も含めて幾つかあります。

まず事業名1で、設定目標のところには井之頭小学校の話も出ていますが、特に状況説明の中に入っていないので、何かもし動きがあれば、お願いしたいと思います。

事業名3、市民科の公開について、先ほどの話にもつながっていると思うのですが、非常に重要なことで、皆さんも興味があるところでぜひ知りたいたいと思っていますが、大勢が集まれない状況もあります。そういう活動に興味ある方々が多いので、ぜひ工夫して公開できるように取り計らっていただけるといいと思いました。

事業名5について、桜野小学校の研究発表会は中止になったということですが、延期ですか。研究期間の延長も含めということなので、この間ずっと研究は続けて2年分を発表するというのでしょうか。

事業名7、成果と課題の①です。在校時間が60時間を超える教員の方が非常に増えているということですが、特に教育教材について、私もコロナ禍でオンライン授業をやって、準備に時間がかかります。そういうことはあるけれども、慣れてくると大分減ってくると思うのですが、その辺の状況をまた詳しく見ていっていただけるといいと思います。

特に校務処理の効率化という話が成果と課題の①に載っているのですが、これの作業は重要でこの作業は重要でないという見分け方は、やっているとどれもみんな重要に見えてきて、やらなければならないという状況になってしまいます。何かうまいガイドがあるといいと思います。重要なところを中心にして作業等々を行うということで、子どもたちのためにということを優先して、やっていっていただけるといいと思います。

事業名9で、教員用の手引きの話が状況説明の③にあります。これの反応はどうだったということを伺いたいと思います。

事業名11、②の状況説明で「『サイエンスクラブ』のあり方について、次年度の方向性を確認した」ということですが、この方向性について簡単に説明していただきたいと

思います。

次の成果と課題のところの②ですけれども、「土曜学校について、どういう層に」と、これは何かつながっているように感じました。多分「どういう層に市の生涯教育を提供するのか」というのは2個目の話だと思います。ですから、「について」というのを両方入れておくと個別の話になります。「土曜学校」と「どういう層に」という内容を分ける工夫をしておいていただけるといいと思いました。

事業名12の状況説明②、「3Weeks Try」について、私も見て、前回も見て来たのですが、非常に分かりやすく、いろいろな運動が出ていて、一緒にできるかと思いました。ウェブで配信されていて良かったと思います。

ただ、本当にこれも細かい話で申し訳ないのですが、「3Weeks」の紙の2枚目にQRコードが載っていますが、QRコードの①の下はもう一個②があるけれども、その説明が書いていない。両方①の説明に見えるので、至急修正していただけると分かりやすくなると思いました。

事業名14、状況説明②で「歴史館大学受講生がボランティア・サポーターとなり」ということが書かれています。こういう方が増えてくれるとうれしいと思うのですが、今、何人ぐらい手伝ってくれそうな人がいるのか、継続性を持ってお手伝いいただけると、またその方が育っていくとよいと感じました。ぜひその辺の話を伺いたいと思いました。

歴史館について、8月15日に伺ったら非常に混んでいました。見学者が多くて有り難いと感じました。非常にいい展示がされていて、武蔵野の地名の話と、国勢調査の結果が分かり易く展示されていました。

配布資料は展示されている内容をそのまま印刷していただいて、非常に資料が参考になるものです。面倒くさいかもしれませんが、毎回ああいう資料を作っていただけるといいと思います。

地名に関しては非常に立派な冊子が届いて、昨日も一生懸命見ておりましたけれども、良かったです。自分たちが住んでいる市内にどんな名前がついているのか、非常に興味がある内容でした。

事業名18ですが、蔵書構成は、今まであまり聞いたことがなかったので、非常に興味を持って見ました。今後詳しい分析をされると思うのですが、その館の特徴がこういうところに出ているので、どういう蔵書を増やしていったらいいのか、参考にされるとい

と思います。利用される方々の需要、ニーズに合わせてやっていくと思うのですが、非常に興味ある内容で今後の報告を期待しております。

以上です。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 事業名1の井之頭小学校普通教室増設工事でございますが、これは昨年度仕上げるところだったんですけれども、一部仕上げが残っておりまして、今年度の春先に完了させております。

○渡邊委員 これは終わっているのですよね。

○渡邊教育企画課長 終わっています。

○竹内教育長 指導課長。

○村松指導課長 市民科の公開についてでございますけれども、現状のところを含めて工夫していくことと、試行でしっかりとできているかというところも確認しながら、どのような内容が展開されているのかということ発信できるように、工夫していきたいなというふうに思っております。

桜野小学校におきましては、昨年度と今年度の指定で研究発表というところだったんですけれども、今年度、2か月休業になったというところも踏まえて、そこからまた再開に向けてということで、元来大体、2年時の発表というところ、4月からどんどん研究授業を積み重ねていって検証していくという作業が、桜野小はできなかったというところで校長先生のご相談がありました。今、再開してからは徐々に研究授業を積み重ねつつ、また、来年も含めて研究授業を積み重ねて検証していった発表をするという手はずで進んでいるところでございます。

あと働き方改革につきましては、校務内容についてはかなり軽減をしてきているんですけれども、さらにその効率化というところで、ここは難しいところなんですけれども、検討していきたいというふうに思っております。

○竹内教育長 教育相談支援担当課長。

○祐成教育相談支援担当課長 不登校の教員用の手引きに関しては、中身にクレスコーレ等を載せておりまして、先生方のクレスコーレの見学を行っていただくことができました。スクールソーシャルワーカーの利用も前年に比べて増えているような状況でして、ある程度反応はあったのかなというふうには感じております。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 事業名11の「『サイエンスクラブ』のあり方について、次年度の方向性」というところですが、現在は定員45名程度で実施しておりまして、全12回のコースとなっております。先日、方向性を確認したところ、密にならない状態をつくって実施していくためにはどうしたらいいかというところで協議を行いまして、人数を20名程度に絞って、同じ1コース約5講座にして、それを2回やろうということで、定員数は20名なんですけれども、実際は40名程度受講できる形にできないかというところで協議を進めている段階です。

○渡邊委員 教える側は大変ですけれども、頑張っていたきたいと思います。ありがとうございます。

○竹内教育長 ふるさと歴史館担当課長。

○栗原武蔵野ふるさと歴史館担当課長 14の歴史公文書の利活用でございますけれども、歴史公文書関係のボランティア・サポーターは、7名がまず加わってくると思います。それ以外に古文書、江戸時代のときに取り組む者が数名、こちらはくずし字などを読んで誰にも分かりやすい形に直したものを、皆さんにお見せできるような形にするとか、かなり専門性が高いので、もう少し少ない数かもしれませんが、そのくらいの数で始めていきたいというふうに考えております。

図録は、今までは企画展のみで図録を作っていたんですけれども、それ以外の展示室や、さらに常設展の一部を使った特別展でも図録を作ろうということで、今年度からそのような形で図録の充実を図っております。

○竹内教育長 図書館長。

○目澤図書館長 蔵書構成についてありがとうございます。今回分かったのは、市立図書館3館全体としては、バランスが良かったのかなというふうには感じておりますが、ただ、市立図書館3館それぞれに特徴のある館ですので、館ごとの蔵書構成というのも引き続き検討・検証していけたらと思っています。

以上です。

○竹内教育長 よろしいですか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 今はやりの本がありますよね。何冊も用意されていますけれども、はやりがなくなるとそのまま蔵書になるのですか。それとも減らしているのでしょうか。

○竹内教育長 図書館長。

○目澤図書館長 複本のお話かと思いますが、予約、皆さんのニーズが高いときに蔵書の冊数は増えております。増えた後ですけれども、もちろんお貸しできる状況にない汚れであったり、汚破損があったものは排除、廃棄したり、あるいはニーズが下がってきたときにリサイクルに回したりといったことはしております。

○竹内教育長 ほかはいかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 2ページのオリンピック・パラリンピック教育ですけれども、私が現職だった平成28年度に、既にオリンピック・パラリンピック教育はかなり力を入れていて、月曜朝会とかで随分この話をしてきました。毎年かなり積み上げをしてきて、子どもたちも、自分の学校が担当している国とかにかなり詳しくなっているんだらうなと思うんです。「さらに推進するとともに」と書いてあるんですけれども、言葉で「さらに」と言うと、さらにこれにまた追加するよなというような感じにも取れるので、今年に実施の可否というのがこれから議論されて決まると思うのですが、この辺は「さらに」という言葉がなくてもいいのではないかと感じました。

それから、コロナ禍にあつていろいろな行事、宿泊行事等が中止になっていっているということは、子どもたちの学びにとって学習以外の学びがなくなっているわけですから、これは非常に大きいなと思っています。それを何とかして補完をしていくということがとても大切だなと思っています。状況説明の②番に、「連合行事や宿泊行事の中止による代替行事を計画するに当たっては、児童・生徒が主体的に計画し」と書いてあるわけですが。児童・生徒の思いとか願いを受け止めて、そして計画をしていくということは、すごく大事なんですけれども、この書きぶりだと、児童・生徒が主体的に計画するということが何かメインになってしまっているような、そんな読み取りができてしまうので、児童・生徒の願いを生かした形でより良い教育活動を、学校が考え進めていくというようなことではないかなと思いました。

それから、次のページの武蔵野市民科ですけれども、これは非常に関心が高く期待も高いことだと思うんです。ただ、今はコロナ禍にあつてなかなか進められていないという現状もあると思います。ただ、学校によっては、これをきちんとした形でやっていくということにおいて取り組んでいることもあると思うんです。これを保護者とか市民にきちんと伝えていくということは本当に大事ななと思います。ここに書かれているとおりだと思っています。それで、ぜひこれから、十分な取組がまだできていないだけ

ども、こういう願いでこんな取組をしたらこんな成果がありましたよということも含めて、家庭や地域にどんどん説明をしていただけるといいと思います。家庭や地域が、武蔵野市民科というのは武蔵野市らしい教育であると、これは期待できそうだなという、そういう思いが持てるような説明を進めていただきたいなと思っています。

それから、桜野小学校で取り組んでいる主体的・対話的で深い学びを実現するための授業力の向上というのは、これはとても大切な研究だと思います。これをもう一年延期をして発表会を行うという考え方に私も大賛成です。いろいろな授業を積み重ねていく中でまた新しい発見があるでしょうし、より良い授業を追究していくと、それだけに、この研究成果をできるだけ武蔵野市内の多くの先生に広げたいと思うんです。前もあつたんですけれども、一小と大野田小の英語の発表のときに全員参加させようじゃないかという、ああいった取組を、ぜひ来年度の桜野小の研究でもできたらいいなということをおもいました。

それから、校内研究というのは全部の学校がやっているわけで、市の奨励を受けている、受けていないにかかわらずやっているわけなんですけれども、受けている場合は発表の機会がありますよね。桜野小は1年延期なんですけれども、ほかの研究はどうなっているのかなということをおもっていただきたいなと思いました。

それから7ページです。こういったコロナ禍にあつて、「在校時間が60時間を超える教員が発生している」という記述があるんですけれども、こんなことを言ってしまうと語弊があるかもしれないんですが、各学校で遅くまで残る先生っているんですよ。その仕事ぶりを見ていると、語弊があるかもしれないけれども、時間をかけて仕事をするのが趣味みたいな、自分の信念でやっているわけなんですけれども一番気になるのというのは平均してどうなのかなということなんです。先生たちが、コロナ禍になる前と、コロナ禍になって仕事のいろいろな内容が変わってきているわけなんですけれども、その変わってきている中で仕事量が全体として増えているのか、それとも学校の努力によって減っているのか、その辺は平均とかそういった形で見えていくのがいいと思いますので、長い時間の教員が多少多くなったとかということではないところに、目を向けていただけるとありがたいなと思っています。

最後に、11ページですけれども、スポーツ振興で成果と課題の②番で、「おうちで運動」とか「3Weeks Try」に、件数が出ていますね。結構見ている人が多いと私は捉えたのですけれども、これの数については同じように、このぐらい視聴回数があ

るのかなと考えていたのより多いのか、そうでないのかとかということと、もう一つ、こういったものを見た人の感想というのがあると思うんですけども、その感想を次にまた生かして行っていただきたいなど、ですから、そういった感想みたいなものが得られたのかどうかと、その辺もお話しいただければと思います。

以上です。

○竹内教育長 指導課長。

○村松指導課長 ご指摘いただきました事業名2の、子どもたちが主体的に計画しというところですけども、基本的には計画していただきたいところがあると、こちらとしては考えております。子どもたちに時間、ある程度時間の保証というのは学校のほうですると思うんですけども、その中で何ができるのかというところはあるんですが、ただ、校外に行くとかいろいろの対外的なものについては、やはり委員ご指摘のとおり、児童・生徒の思いを大切にというところになると思いますので、このところは表現のほうを検討していきたいと思います。

市民科については、先ほどもお答えしたように、何とか期待できるような説明ができるようにしていきたいと思います。

桜野小学校の研究につきましてですけども、今年度も悉皆で発表については行うということで予定していたんですが、今後のコロナの状況に応じて、それができるのかどうかというのは、今後の検討課題と認識しております。

ほかの今年度から研究指定をしている学校についてでございますが、ここについても延期をするのかどうか調査をしたところ、今のところ再開後からでも来年度の発表に向けて研究を進めることはできるという回答をいただいておりますので、来年度、研究発表会が多くなると考えております。

最後、働き方のところについては、こちらのほうの分析がまだ甘い部分、不十分な点がございまして、先ほど委員がご指摘のとおり、平均についても含めてさらに分析についてを進めていきたいと考えております。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 「おうちで運動」等の予想より多いか少ないかというところですけども、個人的な意見になってしまうんですが、多いかなと思っております。数あるこういったオンラインで配信している動画は非常に多いんですけども、市、事業団が行っているものにリーチしていただいたというのは、比べると多いのかなと思っ

ております。

見た方の感想なんですけれども、特に取ってはいないんですが、個人的な感想を聞いたところでは、目標が立てやすかったとか、渡邊委員もおっしゃられていたような目標になるという、簡単にできるという感想を持たれた方がいらっしゃいました。

○竹内教育長 よろしいですか。

ほかはいかがでしょうか。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 私からも幾つかお話をさせていただきます。

まず市民科ですけれども、保護者会が開催できなかったので説明資料を配布したということで、これは先ほどの委員からのお話からの回答もありましたけれども、初めて取り組んでいくというところがありますので、いま一つ保護者にとっても子どもたちにとっても分かりづらい部分もありますから、今後もう少し掘り下げた説明を、丁寧にさせていただけたらなというふうに思っております。

次は、事業名4の言語能力の育成の、状況説明の②です。「感染予防を踏まえたアクティビティの提案」、そして成果と課題のところの②番、「感染予防を踏まえたコミュニケーションを図る学習活動」と、これは具体的にどのようなものなのか知りたいなと思っていたところです。

次は、事業名7、学校における働き方改革の成果と課題の②番です。「部活動指導員を各校1名配置」となっておりますけれども、各校1名は特定の部活に入っている指導員なのか、それとも全部の部活を横断的に見ていっている状況なのか、少し説明をしていただきたいなと、また、これの結果、さらなる増員などはどのような見通しなのかなというところが知りたいと思いました。

次は、事業名9の不登校児童・生徒へのというところですが、状況説明②にありますむさしのクレスコーレですが、私は実際に見学に行ってきました。コロナ禍でもあり、利用登録者数はまだまだ少数であるという施設のスタッフの説明もありましたけれども、クレスコーレの場所の空気感とかスタッフの話から、今までの実績のある団体であり、とても自然体で温かい雰囲気が感じられて、いいスタートができているんだなということを実感して少し安心したところです。

それと、事業名14の歴史公文書、これは私もふるさと歴史館、渡邊委員も行かれたということで、私も武蔵野の地名というのはとても興味があって、市民の中でもとても興

味があるという声が、今までの様々な企画展があったかと思えますけれども、このテーマはとてもいいなと思って、私も持ち帰りの資料を幾つか持って帰って、そういうことに興味がある友人にもお伝えしていきたいなど、実際に渡した内容で、これはありがたい企画だったなと思ったところです。

次に、事業名18、「蔵書方針の」というところですがけれども、事業名19でした。「市民への適切なサービス水準確保」というところです。状況説明①番ですがけれども、市民の優先枠は、強くしてほしいなと思っております。特に先ほど話にもありましたけれども、特に今話題の本とか人気が出ている本とかというのは、予約を取っているかと思えますけれども、市民であるから優先というのを、市立図書館という良さを生かしてほしい。さらには、貸出し期間も延長していただけたらいいんじゃないかという声が出ているほどでございますので、お伝えさせていただきました。

私からは以上です。

○竹内教育長 指導課長。

○村松指導課長 市民科につきましては、今、委員がご指摘のとおり、その辺の説明も含めて行ってまいりたいと思います。

2つ目にいただきました小学校の英語のアクティビティやコミュニケーションの違いというところですがけれども、まずは家庭学習の支援というところで行ってきたということで、家でもできる英語を使うゲームであるとか、そういうことについてもアクティビティとして紹介をしてきたというところ、また、再開後についても、結構、授業の中でただDVDを見せたりとか、先生から説明をしたり、そして何か書かせるということが多かったのですが、ただ書くにしても、ゲーム感覚を取り入れたような内容ということを、アドバイザーのほうで小学校の先生方に提案してきたという経緯がございます。

今後ですがけれども、英語、外国語活動、外国語については対話になりますので、そこについて、近距離じゃなくても感染予防を踏まえてどのような対話の活動ができるのかということについて、アドバイザーからまた学校のほうにも提案していきたいと考えております。そういう意味で、アクティビティとコミュニケーションということで分けて表現させていただきました。

以上です。

すみません、もう一点です。部活動指導員につきましては、横断的ではなく特定の部活、各校1つの部活について指導員をつけているというところがございます。そこに

よって1つ部活動指導員が入ることによって軽減等がなされてきましたので、今後まずは各校2名、2つの部活に指導員が入ることを予算要望していきたいと考えております。

○竹内教育長 よろしいでしょうか。

ほかはいかがでしょうか。

山本委員、どうぞ。

○山本教育長職務代理者 私は感想だけです。

ここ何回かずっと言っていることですがけれども、この業務状況報告がすばらしく読みやすくなったことに感動しています。何度でも読みたくなるというか、よく分かるというか、本当に皆さんのご努力だと思うんですけれども、市民の皆さんもこれをちゃんと読んでくださったらいいな、と思ったことでした。

それから2ページの指導課の事業名2、「人権教育や多様性を認め合う教育と」というところです。その成果と課題のところ、新型コロナウイルス感染症の、人権に関する指導について6月にもう研修を行ったということ、とても良かったなと思っています。いろいろなニュースを聞くにつけても、心が痛くなるような報道がありましたよね。そのことに武蔵野市はどういうふうに関わっていくのかなと思っていたところでした。差別意識があって何かひどいことを言うってしまうということも中にはあるかもしれないにしても、物事に対してどういう見方をすればいいか、見方・考え方をすればいいかということは、やはり学びの分野だと私は考えているので、こういうことはとても大切な出発点だと感じています。

それから、最後に1つですがけれども、各課のことを読ませていただいて、いろいろな場面で使う道具が本当に変わったなと感じました。ここ5年のことを考えても、これほどいろいろなことが情報システムとして変わってきているということを実感しています。図書館のところでも無線LANの導入がありました。新しいシステムがどんどん入ったり、そのことに関しては提供する側の関わり、それから、そのサービスを受ける側の関わりと、大きく分けると2つあると思います。どちらにしてもメンタルヘルスというか、その道具を使う心身のケアを研究していく大切さというのが忘れてはならない部分だと思っています。

今の社会は新しいものを開発していくことには熱心ですがけれども、使う側の人間の心身の難しさ、それを受け止めていくことの過程と、そこで起こるいろいろなことに無頓着だなと感じているので、各課の皆さんが、その提供する側、使う側についてゆっくり

やっていきたいと思いますという意識、それから、分からないことはどうぞ聞いてくださいというようなこと、それからもう一つ、これが大事だと思っているんですけども、それを使わなくても済むことというのもあるんですよ。それを使わないほうが人間の力が育っていくとか、本来の人間の力を持ち続けていくことができるというようなことも、確認しながらやっていきたいと思いますという意識が大切だと思って、私、その辺は武蔵野市の特徴につながる部分だろうと考えています。

以上です。

○竹内教育長 事務局のほうで何かありましたらどうぞ。よろしいですか。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項2、令和2年第3回市議会定例会提出議案（補正予算）についてです。説明をお願いします。教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 第3回定例会に提出した補正予算についてご説明します。

今回、資料は3つございます。A4横の両面の表です。歳入と歳出の表が1枚。それと教育企画課所管部分の補足資料としてA4縦のものです。それから指導課の学習者用コンピュータ導入事業について、これも補足になりますけれども、3つございます。

まずA4、1枚目のほうです。上段が歳入予算について、下段が歳出予算について、歳出予算は裏面も続いております。

まず歳出予算でございますが、指導課、教育指導費でございます。いわゆるGIGAスクール構想への対応ということで事業費として6億9,500万ほど、うち一般財源は3億5,400万円、差分の3億4,000万は上段の歳入予算のところでございますが、国と東京都からそれぞれ補助金を頂いております。このGIGAスクールへの対応については、後ほど補足資料に基づいてご説明をいたします。

裏面をご覧いただきたいと思います。教育企画課でございます。学校管理費が2つございますが、上段は小学校費、下段が中学校費になります。それぞれ学校の消毒作業をシルバー人材センターに委託するもので、今年の10月から半年分を補正予算として要求しております。

申し訳ありません。訂正がございます。説明欄でございますが、真ん中の部分、校舎等施設維持管理、2つ目の黒丸の部分の次です。市立中学校消毒委託について1,682万8,000円と書いてありますが、正しくは712万5,000円になります。「7,125千円」です。

大変申し訳ございません。これについても後ほど補足ペーパーに基づいてご説明いたします。

3つ目が生涯学習スポーツ課、社会教育総務費で、五大学のうち寄附講座について三大学分中止になりましたので、それを減額補正するものです。残り二大学の寄附講座の内容につきましては、別途、最後の報告事項のところでご説明いたします。

補足ペーパーのほう、教育企画課部分をご覧いただきたいと思います。この新型コロナウイルス感染症を踏まえまして、各学校では消毒作業をやっていただいております。相当の部分を先生方の負担に負っている部分がございます、これを軽減するために補正予算要求をしております。

具体的には、委託内容の（１）をご覧いただきたいと思います。既に1学期からシルバー人材センターに消毒作業の一部を委託しておりますが、これは休止中の学校開放の施設開放員のチームをお願いしておりましたが、学校開放のほうも順次始まっておりますので、このチームではできなくなるということで新しい専属のチームを立ち上げ、かつ作業量も増やしていきたいと思います。1学期は1校1日1人で3時間まで、この中には学校の施設作業も入っておりましたので、正味で消毒にかけられる時間は最大で2時間でした。それを2人体制にして、施設は施設開放のほうでやっていただくこととなりますので、6時間できることとなります。最大3倍になる形となります。消毒する範囲につきましても既に市の学校再開ガイドラインで示しておりますが、1日1回以上消毒する範囲としてドアノブ、手すり、スイッチなどを例示しておりますけれども、ここを必ず消毒すべき範囲として、この範囲については先生ではなくてシルバー人材センターのチームだけでも作業できるように時間を確保したところです。消毒範囲につきましては国のほうも通知を出しております、机とか椅子については特別な消毒作業は必要ないということを改めて注意喚起しておりますので、校長会を通してこちらからもお示しをしていきたいなと思います。

最後、今後の予定ですが、新しいチームを立ち上げております関係で、9月いっぱいまでは試行、その状況を見て10月からは本格施行としたいと考えております。

それから、指導課の補足資料のほうをご覧いただきたいと思います。学習者用コンピュータ導入事業、いわゆるGIGAスクール構想への対応でございますが、予算の内訳は3番に書いておりでございます。6億8,000万円ほどのうち大きなものは（１）の3つ目、タブレットが4億円、それから（２）の2つ目です。校内通信ネット

ワーク機器・コンピュータ充電保管庫購入費ということで、備品に関する予算が大部分を占めております。

5番にはこれまでの経過が書かれております。これが裏面にも続いておりまして、武蔵野の場合は、これまでの武蔵野の学校教育にこういったコンピュータをどういうふう位置付けていくのか、価値つけていくのかというのを、しっかりと議論したのが特徴かと思えます。現在の局面は裏面の中ほど下、「現在」で始まっている部分ですけれども、プロポーザルによる業者選定を進めているところでございます。年度内の3月末までには配備をできるように、記載のスケジュールで動いていきたいと思えます。

資料1につきましては、8月の教育委員会定例会でご議論いただきまして決定した基本的な考え方の文書でございます。それから資料2以下は、プロポーザルで事業者のほうに示す具体的な技術的な条件でございます。こちらについての説明は割愛をさせていただきます。

資料の説明は以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたらお願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 消毒について、シルバー人材センターでお手伝い、チームを増やしてやっていただくということですが、費用は、人件費がメインだと思うのですが、消耗品費も全部含めてこの金額で請け負っていただけたらと考えてよろしいのでしょうか。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 今回の補正につきましては、いわゆるシルバー人材センターへの人件費相当の委託料になります。そのために消毒用の消耗品等が必要ですが、これについては前回の補正予算で各学校に相当額配分しておりますので、その中でお願いすることになります。

○竹内教育長 よろしいですか。

ほかはいかがでしょう。

井口委員、どうぞ。

○井口委員 同じように、消毒については増えて要員を増やしていくということで、これはとてもありがたいことだなと思っています。その中に書いてあります大規模校の場合とはありますけれども、大規模校は具体的にはどこの学校になるのかを教えてくださいませんか。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 ここで予算上は大野田、桜野小の2校について、大規模校としてより作業量が必要な場合は対応できるように予算計上をしております。

○竹内教育長 よろしいですか。

ほかはいかがですか。よろしいですか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項の3、令和2年第3回市議会定例会提出議案（武蔵野市新学校給食桜堤調理場（仮称）配送用コンテナ等の買入れ）についてです。説明をお願いします。教育支援課長。

○牛込教育支援課長 報告事項の3、新学校給食桜堤調理場配送用コンテナ買入れに関する議案についてご説明をいたします。

現在、工事を進めております新調理場で、各校に給食を配送するためのコンテナ等の買入れについて、買入れの予定価格が2,000万円を超えることから、条例に基づき今回の市議会に提案をするものでございます。

資料をご覧ください。買入れるものは3点です。1点目が給食や食器を各校に配送するためのコンテナ、2点目が焼き・蒸し調理を行うスチームコンベクションに鉄板を並び入れるためのラックインカート、3点目が食缶を消毒保管庫に収納するためのカートになります。これらの備品については、新調理場の洗浄機や保管庫などの設備の仕様に合わせて製作をするものであり、一定の期間がかかることから、このタイミングで契約を行うものでございます。入札価格は8,470万円となりました。入札の結果、契約の相手側は記載の事業者になっております。参考までに今後の建設工事のスケジュールを記載してございます。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項4、武蔵野地域五大学共同講演会2020についてです。説明をお願いします。生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 共同講演会についてお知らせです。

基調講演が10月1日、講師に鎌田實さんをお呼びして、「コロナ時代をどう生き抜く

か」ということで基調講演を行っていただきます。定員は150名となっております。そのほか武蔵野大学が10月8日からオンライン講演、亜細亜大学は10月14日からオンライン講演となっております。9月10日が申込み締切りとなっておりますので、ご興味があればよろしく願いいたします。

以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明にご意見、ご質問があればお願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水委員 これはオンライン講演でも定員というのがあるんですね。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 定員は武蔵野大が100名、亜細亜大学が50名ということとなっております。

○竹内教育長 ほかはいかがでしょうか。

よろしいですか。

こういう状況ですから、鎌田先生のお話は、公会堂としては限られた人数ですが、多くの方にお聞きいただければと思います。

特にご意見、ご質問がなければ、この報告事項については了承されたものといたします。

◎その他

○竹内教育長 次に、その他です。

その他として何かありますか。

○渡邊教育企画課長 特にございません。

◎閉会の辞

○竹内教育長 それでは、これをもちまして本日の日程は全部終了いたしました。

次回の教育委員会定例会は、令和2年10月7日木曜日、午前9時30分から開催いたしますので、よろしく願いいたします。

お疲れさまでした。

午前 11時33分閉会